



宇根豊 生きものの語り

農と自然の研究所、10年の軌跡

■日時 3月22日(月・祝) 午後12時半 開場

■場所 黎明館講堂

(鹿児島県歴史資料センター黎明館)

鹿児島市城山町7-2 tel099-222-5100

1:00~2:30

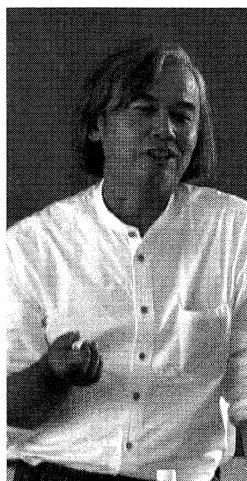
大きな物語から小さな物語へ
農と自然の研究所の10年

2:45~4:30

自然への内からのまなざし
生きものの語りの未来
(会場参加スタイルで)



■参加費 500円 (当日受付にてお支払いください)



講師：宇根豊氏

1950年長崎県島原市生まれ。農業改良普及員時代の1978年に「減農薬稲作」を提唱。減農薬という言葉は「虫見板」とともに全国に広がった。1983年から農協と生協の「減農薬米」産直を実現、米の地場流通の扉を開いた。その後「環境稲作」を提唱し「ただの虫」という言葉は学術用語として認知された。1990年には福岡県二丈町で新規参入で就農。2000年に福岡県を退職。仲間の百姓と農と自然の研究所を設立。(現在会員は903名) 田んぼの生きもの調査の手法を確立し、日本的な「環境支払い」の理論化に貢献した。また農業が支えるさまざまな自然環境についてのポスターやガイドブック、下敷きなどの出版物は37点10万部を越える。

農と自然の研究所は、こうした実績で、朝日新聞社の第7回「明日への環境賞」、環境省の第1回生物多様性アワードを受賞。今年4月に10年の期限を迎えて解散する。

主な著書『田の虫図鑑』『田んぼの学校・入学編』『減農薬のイネづくり』(以上農文協)『百姓仕事で自然をつくる』(築地書館)『田んぼの忘れもの』(葦書房)『虫見板で豊かな田んぼへ』(創森社)『農の扉の開け方』(全国農業改良普及支援協会)『国民のための百姓学』(家の光協会・第21回農業ジャーナリスト賞) 最新作は『天地有情の農学』(コモンズ)

近刊『風景は百姓仕事がつくる』(築地書館)『農と自然の復興』(創森社)

広めた言葉「減農薬」「減農薬米」「虫見板」「ただの虫」「田んぼの学校」「農業生物」「土台技術」「環境稲作」「田んぼのめぐみ」「新・農本主義」「百姓学」「天地有情」など



主催団体 農と自然の研究所 かがしま合鴨米生産クラブ かがしま食農育協議会
グリーンコープかがしま生協 鹿児島の食農育と地域連携を考える会 うるし作人塾

お問い合わせ先：FAX099-244-1032 (大久保) 090-8404-2396 (平山) 090-3014-5965 (門田)